様式２

令 和 ２ 年 度　　自 己 評 価 表　【中 間 評 価】

鳥取県立鳥取緑風高等学校

中長期目標（学校ビジョン）	1　基本的生活習慣の確立による、生徒の自己管理能力の育成 2　夢と希望を持ち、世界を広げていくことのできる生徒の育成 3　社会のルールやマナーを遵守する生徒の育成 4　基礎・基本の重視による、生徒一人一人の学力の向上 5　生徒が将来の生き方を意識する進路指導の充実 6　自律性を伴った、生徒の自主性の育成 7　自然環境について考え、行動することのできる生徒の育成

今年度の重点目標	1　基本的な生活習慣の定着を促す。 2　生徒が目標を持ち主体的に取り組む授業つくりに努める。 3　個々の生徒の課題に向き合い、自立と成長を促す指導の充実に努める。 4　視野を広げ、他者と協力する体験活動の充実に努める。

年度当初					評価結果（９）月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標（年度末の目指す姿）	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
基本的な生活習慣の定着	生活の自律	○時間を守ることができる生徒が増えている一方、決められた時間に行動できない生徒もまだ若干いる。 ○校舎内外はきれいに保たれているものの、ごみの分別や資源の節約など、環境配慮行動に対する意識は十分ではない。 ○学業とアルバイトとを両立している生徒が半数以上の中、６０％程度の生徒が健康的な睡眠習慣で学校生活を送っている。一方、スマホやゲーム等の使用時間が長く、深夜に及んでいる生徒もいる。 ○通信制と定時制２・３年次でむし歯保有率が低下し、ブラッシング、セルフケアの指導により歯みがき習慣化が向上してきている（３回以上１３％→２８％）。 ○定期的な生徒個人ロッカー内の点検と整理指導により、教材管理が身につきつつある。	○時間を守り、規則正しい生活時間を過ごすことができる。 ○健康管理に関心を持ち、健康状態の向上に努めることができる。また、感染症予防のための対策がとれている。 ○挨拶を交わし、身だしなみを整えることができる。 ○身の周りの美化に配慮し、整理整頓（清掃、ロッカー整理）ができる。	○学業を中心とした健康的な生活を送るために必要な生活習慣について、振り返りをさせるとともに具体例（起床・就寝時刻、睡眠時間、歯と口の健康の保ち方）を提示する。 ○健やかな生活習慣を確立する具体的手立てを考えさせたり、実際に行ったりする場面を設ける。 ○生活習慣の改善について保護者と連携して働きかける。 ○積極的な挨拶や声かけ、丁寧な面談を通して良きコミュニケーションの具体例（対人関係における挨拶ことばや対話）を提示し、習慣づけを働きかける。 ○ロッカー内チェックと整理指導を引き続き行う。 ○感染症予防のため、衛生指導の徹底を図る。	○教職員の日常的な指導により、多くの生徒が規則正しい生活やルール・マナーの遵守ができるようになりつつある。 ○定時制昼間部で、２～４年次副室長が保健委員として感染症予防と歯と口の健康についてクイズを交えて発表したり、４年次「生徒健康リーダー」が、自作ポスターでむし歯治療の重要性を訴えた。夜間部では夜間給食時に、通信制ではＬＨＲで、手洗いなど感染症予防の指導を行っている。 ○９月末時点、むし歯があった生徒の治療完了者の割合が２７．９％とこの３年間で最も高くなった。 ○登下校時、教職員に自主的に挨拶する生徒が増加している。 ○生徒ロッカー修繕に伴い、庫内の整理・管理を指導した。 ○校地外のゴミは減少傾向だが、目の届きにくい所にゴミが見つかることがあった。	B	○基本的生活習慣の定着・自立へ向け、粘り強く指導を継続する。 ○生徒の健康意識を喚起しやすい学習活動として、生徒保健委員による保健学習の展開を模索する。 ○登下校時や日常的な挨拶・声掛け、面談を継続し、対人スキル獲得の一助とする。 ○公共物を大切に使用したり、身の周りの美化やゴミの分別の徹底を引き続き指導する。
生徒が目標を持ち主体的に取り組む授業つくり	個に応じた学力の向上	○昨年度の生徒アンケート結果では、授業は工夫されていてわかりやすいと肯定的回答が７９．３％、教職員の丁寧な対応については８５．６％と高い数値であった。 ○授業での反復学習の時間が不足しており、学力の定着や向上に繋がりづらい現状がある。一方、定期的な課外指導に継続的に取り組み、力をつけてきている生徒も一定数いる。 ○「まなトレ」の取組は、適応しにくい生徒が若干いるものの、総じて意欲的に取組む生徒が増え、互いに教え合う姿も見らる。また、学び直しや進路実現へ取組にも活用している。 ○昨年度の年間の単位修得率は定時制が６７．６％、通信制は８４．９％でどちらも目標以上であった。 ○多くの授業でＩＣＴを活用しているが、生自身で学習を進めるまでには至っていない。	○社会生活を営むために必要な基礎学力を養成している。 ○上級学校の入学試験や就職試験に対応できる学力を養成している。 ○「授業は工夫されていてわかりやすい」と回答した生徒の割合７５％以上が継続している。 ○選択した科目を欠席しない環境を醸成する。その結果、定時制生徒の単位修得率は６５％以上、通信制生徒の単位修得率は７０％以上である。	○公開授業の促進をとおして授業の工夫・充実を図るとともに、「まなトレ」・課外指導を実施したり、校外模試を活用したりする。 ○毎日の声掛けや個別具体的な支援、教職員間の情報交換によるきめ細かい指導を行う。 ○ＩＣＴのさらなる活用により、生徒個別の状況に応じた学習指導を充実させるとともに、県が支援する遠隔教育システムを活用してその充実も図る。 ○学生教育ボランティア（緑風ソシオ）により学習指導補助を充実させる。	○コロナによる臨時休校を想定し、各教科で常に自宅学習課題などを準備している。 ○生徒の「まなトレ」に対する取組は概ね良好であり、教えあいも見られる。 ○課外指導を継続して受けている生徒は、真面目に取り組み学力が向上している。 ○発問の工夫やワークシートへのコメント記入など、教職員の学習指導に工夫が見られる。また、教職員と特別支援教育支援員との綿密な情報交換により、細やかな指導ができている。 ○タブレットを活用した授業や個別指導が進んできている。 ○学習ボランティア（緑風ソシオ）は、生徒の学習意欲向上に大きく寄与している。 ○学校評価アンケート（７月）で「授業は工夫されていてわかりやすい」と肯定的回答した生徒の割合は７８．４％であった。 ○前期終了時点での単位修得率は、定時制７１．７％、通信制８５．９％であった。	B	○「まなトレ」がさらに実効的になるよう、取組を工夫する。 ○進学希望者の校外模試について、種類や活用方法を検討する。 ○授業内容の精選、発問・説明の吟味、学習形態の工夫やユニバーサルデザイン化など、引き続き授業改善に努める。 ○本校の実態に合ったオンライン教育システムの活用法を研究し、順次試行する。 ○学生ボランティア（緑風ソシオ）参加者をさらに募集し、学習意欲が高まる生徒の増加につなげる。
	意欲向上と自信づくり	○資格試験について、全般的に受験者数は減少したものの、高卒認定試験や危険物取扱者試験など多様な検定等に挑戦した生徒もいた。 ○特別支援教育支援員のサポートで、生徒が安心して授業に取り組めた。 ○本校での高校生活に全体的に満足しているとの肯定回答は、定時制が６８．５％、通信制が８７．８％で、どちらも目標以上の達成であった。 ○外部講師による授業やガイダンス等、生徒の意欲向上に役立った。 ○資格取得について、生徒は、授業に関連して受験できるものや、希望進路に関連する検定に意欲的に取り組めた。	○進路意識を喚起し、勤労観・職業観を養成するとともに進路目標が明確となるよう指導している。 ○各種資格試験、検定等を１人が１受験している。 ○高校生活が全体的に満足していると感じている生徒の割合が、定時制では６５％以上、通信制では７５％以上が継続している。	○「勉強＋α」を推進する　（α：資格取得等）。 ○各種資格試験、検定のきめ細かい案内を行う。適性のある生徒に対して、個別に受験を勧める。また受験者には個別の支援を行う。 ○特別支援教育支援員による授業のサポートをとおして、学習意欲の向上につなげる。	○漢字検定等に挑戦する生徒もいるが、１人１検定の受験には至っていない。 ○生徒の事情や適性に応じた進路指導を実施し、多様な進路に関する情報提供が積極的に行われている。 ○特別支援教育支援員による、生徒への授業時間内外の声掛け、支援活動が功を奏し、落ち着いた生活や学習意欲の向上につながっている。 ○学校評価アンケート（７月）で「高校生活は全体的に満足である」と肯定的回答した生徒の割合は、定時制７０．４％、通信制８６．１％であった。	B	○「まなトレ」などで、小さな段階を踏みながら学習課題を克服して基礎学力定着を目指す。 ○生徒の適性や進路目標に応じた資格・検定の案内に力を入れ、受験の奨励や受験準備の支援を行う。 ○１～３年次生徒への、進路に関する情報発信を増やすとともに、卒業後の目標や将来の希望について具体的に考える機会を増やす。
個々の生徒の課題に向き合い、自立と成長を促す指導の充実	生徒の内面を理解しそれを生かした指導	○全員の生徒への声かけを日常とし、担任による面談（３回以上）、ＳＣ（スクール・カウンセラー）面談等が機会を捉え行われ、生徒理解に役立っている。 ○各部課程・学年ごとの生徒情報交換と、ＳＣ・ＳＳＷ（スクール・ソーシャルワーカー）連絡会を定期的に実施している。また、個別支援ケースについては職員間で対応策について協議し、共通理解を図り実践に生かしている。 ○「専門医による相談会」を実施し医療機関との連携を図り、一定の成果が表れている。 ○昨年度は、「質問や相談に丁寧に応じてくれる」と回答した生徒の割合が８５．６％であり、目標値を上回った。	○生徒情報を共有し、関係教職員間で連携をしながら個々の生徒の発達課題に応じた具体的かつ現実的な支援を実行している。 ○全生徒に対し、担任等による面接を年間３回以上実施し、生徒の把握に努めている。 ○入学前不登校（年間30日以上の欠席）であった新入生徒の状況が改善し、出席状況が前年に比べて向上している。 ○「質問や相談に丁寧に応じてくれる」と回答した生徒の割合７５％以上が継続している。 ○生徒の実態把握のための業務が効率的である。	○担任などによる個人面接や日常会話など多くの機会や様々な場面をとらえ、生徒一人ひとりとのかかわりを大切にした指導に努める。 ○教育相談係会を隔週、ＳＣ・ＳＳＷ連絡会を毎月持つことによって、個々の生徒に対する具体的な支援策を策定し実行に移していく。 ○校内支援委員会を活用した組織的な支援により、各部課程をこえた情報共有と個別支援ケースの進捗状況を把握・検討する。 ○医療機関などの各種外部専門機関と連携した支援体制を充実させる。 ○効率よく業務を推進するよう関係教職員と連携する。	○定時制生徒の実態把握調査を教職員・生徒対象に実施し、個別の支援対策に活用するとともに各部課程・学年ごとの生徒情報交換と、ＳＣ・ＳＳＷ連絡会を月１回程度実施し、生徒の共通理解を図っている。 ○生徒の実態に応じた職員研修会を実施し、全教職員で適切な生徒理解に努めている。 ○校医による相談会を、前期３回実施した。 ○学校評価アンケート（７月）で「様々な相談や学習の質問に丁寧に応じてくれる」と肯定的回答をした生徒の割合は８８．８％であった。	B	○個々のニーズに応じた通級指導の実施や外部機関との連携を図り、チーム支援を充実させる。 ○引き続き、ＳＣ定期面談やＳＳＷの家庭訪問同行等を実施し、生徒の状況把握に努め、各部課程・学年ごとの情報交換に活かしていく。 ○生徒理解に効果のある職員研修会や各部課程ごとの事例検討会を実施する。
	自立をめざす生徒指導	○昨年度は、「マナーを意識した行動を心掛けている」と回答した生徒は８２．１％と目標の値以上であった。また、マナーを意識し、改善への行動がとれると回答した生徒の割合が増加した。 ○就職活動をする生徒の大半は、様々な進路行事への出席や面談を通じて自己理解を深め、規範意識も徐々に高まっている。 ○支援が必要な生徒については、教育相談やハローワーク等の外部機関とも連携し、個々に合わせた指導を行っており、状況に応じた対応ができていきている。	○進路意識を喚起し、勤労観・職業観を養成するとともに進路目標が明確になるよう指導している。 ○ルールやマナー向上の指導をとおして、お互いを思いやる心や自律性と自主性が身についている。 ○「ルールやマナーを意識した行動をとるよう心掛けている」と回答した生徒の割合７５％以上が継続している。 ○今年度開始された通級指導教室での自立活動が順調に展開されている。	○進路ガイダンスや進路ＬＨＲ、ＣＡ（就職支援相談員）面談等で自己理解を深めさせ、キャリア設計能力や社会性を育成する。 ○声かけや挨拶を交わし、言葉遣いや行動等に十分に気を配らせる。 ○規範意識が身に付くよう、ルールやマナーについて随時指導するとともに自ら考えて行動できるよう働きかける。 ○通級指導において、関係委員会、関係分掌が中心となり、外部専門機関と連携した取組を実践していく。	○日常生活における小さな目標を記した「チャレンジシート」を使って、生徒自身でできることが増えてきた。 ○多くの生徒が挨拶を交わし、お互いを思いやって過ごす雰囲気が醸成されてきている。 ○後期から本格開始する通級指導へ向けて、生徒の課題に応じた支援体制づくりが進んでいる。 ○学校評価アンケート（７月）で「ルールやマナーを意識した行動をとろうと心がけている」と肯定的回答をした生徒の割合は８１．７％であった。また、「ルールやマナーを守るようになっている」と肯定的回答をした生徒は、昨年度の５４．３％から本年度６９．６％と増加した。	B	○引き続き粘り強く、全教職員で生徒への声掛けや個々に応じた指導をしていき、お互いを思いやるような取組を行っていく。 ○生徒・保護者や、生徒実態把握調査結果、各教職員の気づきや情報などを交換しながら、連携して生徒を支援する。
視野を広げ、他者と協力する体験活動の充実	体験活動の活用	○「ＴＥＡＳⅡ」（鳥取県版環境管理システム）の環境改善目標は概ね達成できている。 ○昨年度は、緑風祭や球技大会等、生徒会執行部が中心となり企画・運営ができた。 ○県高等学校生徒会連盟大会では、バレーボールなどの競技で優勝するなどの好成績を収め、各部の今後の活躍に期待が持てる。 ○アルバイト就業事業、インターンシップ、ボランティアなどの体験事業に参加した生徒は、自信を得たりコミュニケーションの大切さを学ぶなど、一定の成果を得ている。	○感染症対策などで社会情勢が不安定となる中、生徒自身が自らの役割を考え、行動している。 ○環境目標を達成するための具体的実践を全校で進め、省資源・省エネルギー・ＳＤＧｓ（持続可能な開発目標）に関する意識が高まっている。	○「勉強＋α」を推進する（α：部活動、生徒会活動、アルバイト、インターンシップ、ボランティア等）。 ○委員会の活動内容を示し、生徒会執行部が中心となり主体的に企画運営できるように支援する。 ○「ＴＥＡＳⅡ」を適切に運用しながら、環境美化に配慮した実践、エコ活動の推進などを、教職員全員が率先して行う。	○アルバイト就業事業が中止、個人的な長期アルバイトについても雇用が不安定である。 ○インターンシップについても、コロナの影響で見送らざるを得ないケースもあったが、参加生徒は自信を得たり、進路選択の一助となるなど成果を得た。 ○生徒総会や球技大会は、企画・運営を生徒会執行部の生徒が中心となって行うことができた。 ○コロナの影響で大会中止が相次ぐ中、活発に活動ができている部もある。 ○環境目標は概ね達成できているが、ＳＤＧｓに関する意識が高まっていない。	C	○生徒の要望に応え、アルバイト就業の支援を継続する。また、必要と思われる生徒にはチャレンジを促す。 ○緑風祭や学校行事などで、生徒どうしが話し合ったり、協力して活動できる場面の設定を模索する。 ○ＳＤＧｓについて生徒に説明する場面を設定するとともに、環境に配慮した行動に教職員が率先して取り組む。
	集団への適応力の育成	○生徒面接前にhyper-QU研修を行い、結果をクラス経営に活用している。また、ユニバーサルデザインを学習環境や授業に取入れ、「わかりやすい授業」の展開に努めている。 ○ＳＣの１年、２年生対象定期面接実施、ＳＳＷの校外機関への訪問・連携、担任の家庭訪問同行等を実施し、生徒状況等の把握に努めている。 ○昨年度は、「学校に居場所や安心の材料がある」と回答した生徒の割合が７１．７％であり、昨年度より微増した。	○生徒が授業や学級活動、生徒会活動、学校行事等に積極的に関わろうとする姿がみられる。 ○年２回実施するhyper-QUの「学級満足度尺度」、「学校生活意欲の結果」において、改善がみられる。 ○「学校に居場所や安心の材料がある」と回答した生徒の割合が７５％以上である。	○担任とＳＣ、ＳＳＷとの協力によって家庭訪問や外部専門機関との連携を強化して、生徒の人間関係づくりを支援する。 ○ひきこもり傾向の生徒に対して、定期的な家庭訪問等の適切なかかわりを粘り強く継続する。 ○hyper-QUや生徒実態把握の結果を生徒面接やクラス経営に積極的に活用する。	○担任、学年団、生活指導部、教育相談部、養護教諭、ＳＣ、ＳＳＷが連携し、保護者連絡をこまめに行い、連携を密にしながら生徒指導に取り組んだ。 ○長期欠席等の生徒に対して担任、進路指導部、ＳＳＷなどが連携して働きかけ、アルバイトやインターンシップの体験につなげている。 ○学校評価アンケート（７月）で「鳥取緑風高校は、安心して通える学校だ」と肯定的に回答した生徒の割合は７９．８％であった。	B	○引き続き校内外で連携を取りながら、情報共有する機会を持ち、生徒個々・集団の両側面から学校生活への適応が図れるようチームでの指導・支援に努める。 ○転編入生や長欠の生徒については、学期開始後早々に担任・ＳＣ面談を実施する。

※ はすわらクラブ:学年の枠を超えた多様な体験活動　　※ まなトレ:高校までの学習内容学び直しのための教材　　評価基準 A:十分達成(100%) B:概ね達成(80%程度) C:変化の兆し(60%程度) D:まだ不十分(40%程度) E:目標・方策の見直し(30%以下)